

素敵な教職員の皆さんに、
ONとOFFのスマートスタイルについてお聞きしていきます。



私のワーク・ライフ・ バランス変遷

ON
Style

和漢医薬学総合研究所 特命准教授
梅 寿(多田) 雅人

略歴

千葉生まれ、千葉育ち。1995年群馬大学工学部夜間主コース卒業、1997年東京大学大学院生物科学研究所博士前期課程修了。2003年富山大学大学院薬学研究所社会人博士後期課程修了、博士(薬学)取得。2011年より現職。

「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」といった観点からこれまでの生活を振り返ってみると、キャリアの変遷や結婚・育児による生活の変化など、いくつかの大きな節目がありました。私的な経験からですが、自分自身のWLBを振り返りながら、多様性のある生き方について考えてみたいと思います。

私の実家は商売をしていましたので、小学校から帰ってきたら店番をするのが普通の事だった記憶があります。その後、20代半ばまで実家の仕事を続け経営者として働いていた時期には、WLBという概念を持つこともなく、仕事中心の生活を送っていました。しかし、商売を通じて小さい頃から多様な人々と接し、社会の仕組みを実感する事ができたのは、自分にとって大きなプラスでした。その後の人生で柔軟性のある生き方を選択する基本になりました(少し、「多様性がありすぎる生き方」だったかもしれません)。

このような訳で、私が大学へ入学したのは20代後半のことでした。ある程度予想はしていたのですが、10歳近く年の離れた同級生達と学校生活を送ることに多少の戸惑いがありました。多分、若い学生達の方が困惑していたのかもしれませんが。しかし、幸いなことに私は夜間に授業があるコースを選んだため、他にも数人、先に社会経験を積んでから大学で勉強することを選んだ学生と一緒に、孤独感に襲われることはありませんでした。彼らのなかには、す

で医療現場で働いていた技術者や、海上自衛隊に勤務していた者などがおり、多様な人材に恵まれていました(実は、妻と出会ったのもこの時期です)。WLBはどうだったかという、夜間に授業があるため、昼間は生活費を得るためのアルバイトをするか、さらなる勉学のために大学の研究室で実験助手をするなど、やはり、仕事ばかりの生活を送っていました。

次にWLBに大きな変化が起きたのは、修士課程を修了して製薬会社に入社した時でした。それまで、学生という比較的自由な身分に甘んじていられた時期から、会社員という肩書がついて回るようになると、仕事に対する考え方を改めていかざるを得ません。自分の興味に従って研究を進められた学生時代とは違い、コストパフォーマンスを常に意識しながら研究を実施しなくてはならない状況や、「会社としてのしきたり」などを重んじながらの仕事にストレスを感じていました。この時期に仕事と私生活をきちんと見つめなおして、「WLBを調節していれば良かったのでは?」と今では思うのですが、実際にはキャリアを積むことを選び、社会人博士課程に進み、会社の仕事と博士研究で余裕のない生活を送っていました。

その後、研究者としていくつかの研究組織で働いていたのですが、この時期に経験した「結婚・子育て」は私のWLBに大きな変化をもたらしました。とりわけ、私の仕事に対する考え方を大きく変えたのが「子供の誕生」です。実際



に、これを機に妻の生活拠点である富山へ帰ってきたのですが、その際には、「富山へ帰ってきてから次の仕事を探し始める」という、かなりリスクのある選択をしました。今考えると、あまり褒められる選択ではありませんでしたが、生まれてきた子供の世話を1年近くの間、しっかりとできたことは私にとって大きな宝物です。また、家庭と仕事を両立している妻のWLBのとり方を間近でみて、自分の参考にもなりました。縁があって現在の職に就くことができたが、「WLBが大きく偏った生き方は、どこかで無理をしているのではないかと、今では感じています。

「調和のとれたWLBが必要だ」と頭では分かっているつもりなのですが、最近は新しいバランス要因に少し悩んでいます。ここ数年、地域社会との繋がりを求めて、研究者と市民のコミュニケーションを図るサイエンスカフェや、立山黒部ジオパークに関する活動にボランティアとして参加しています。ボランティアとしての活動も、実際に始めてみると責任もあり、大変な事もあります。仕事でも家庭でもない、ボランティアという活動も含めたWLBの確立に挑戦しているところです。



富山県内で開催された子供向けの科学イベントで、分子模型を使って説明をしている様子。

OFF
Style

教員の部局別・男女別・職階別現員数(平成26年5月1日)

部局	教授		准教授		講師		助教		助手		合計		性別比率%	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
人文学部	28	11	19	7	0	0	0	0	0	47	18	65	27.7	
人間発達科学部	31	5	21	9	1	2	0	0	0	0	53	16	23.2	
経済学部	36	3	17	5	4	1	0	0	0	5	57	14	19.7	
理学部	41	2	23	2	3	0	8	0	0	0	75	4	5.1	
工学部	46	1	31	0	13	1	14	0	3	1	107	3	2.7	
医学部	43	1	24	7	5	1	69	21	1	1	142	31	17.9	
医学部 看護学科	3	6	1	10	0	0	1	12	1	0	6	28	34	82.4
合計	46	7	25	17	5	1	70	33	2	1	148	59	207	28.5
薬学部	19	1	20	1	1	0	21	4	0	0	61	6	67	9.0
芸術文化学部	21	0	15	4	5	3	2	1	0	0	43	8	51	15.7
附属病院	5	0	7	0	26	3	41	14	0	0	79	17	96	17.7
和漢医薬学総合研究所	6	1	6	1	0	0	9	2	0	0	21	4	25	16.0
教育・研究センター	19	4	16	5	3	2	9	1	0	0	47	12	59	20.3
合計	298	35	200	51	61	13	174	55	5	7	738	161	899	17.9
職階別女性比率(%)	10.5		20.3		17.6		24.0		58.3		17.9			

教育・研究センターには、以下の5部門を含む。
①地域連携推進機構 ②臨床研究・倫理センター ③学生支援センター ④アドミッションセンター
⑤先端ライフサイエンス拠点医学科には、10人の一般教育教員(哲学・歴史学・物理学・保健体育等)を含む。

数字で見る 富山大学の いろいろ

【富山大学教員の部局別・男女別・職階別現員数】

左の表は、平成26年5月1日現在の富山大学教員の部局別・男女別・職階別現員数を表しています。一番右縦列の学部別女性比率をみると、理系学部の女性比率は文系学部に比べて概ね低く(医学部看護学科を除く)、理学部、工学部、薬学部は一桁台に留まっています。次に、一番下の行、職階別女性比率をみると、教授が最も低く、10.5%となっています。今後、女性教員数の裾野が広がり、管理職に携わる女性教員が増えていくよう取り組んでいきます。

編集後記

みなさん、今号はいかがでしたでしょうか?平成26年度「女性が輝く元気企業とやま賞」受賞記事を筆頭に、実りの秋にふさわしい、成果に通じる盛りだくさんな内容となりました。多くの方々のご尽力でニュースレターも今号が第9号となり、次号はいよいよ二桁の第10号となります。これからもニュースレターを通して情報を発信していきますので、今後も楽しくお読みくださると幸いです。

富山大学男女共同参画推進室 News Letter 編集メンバー
田淵明子 藤本孝子 永山くに子 吳人恵 東田千尋 南村有輝子 須藤梨沙



発行
富山大学男女共同参画推進室

〒930-8555富山市五福3190
E-mail smart@ctg.u-toyama.ac.jp
TEL076-445-6146 FAX076-445-6063
URL http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



富山大学男女共同参画推進室

News Letter

Office for Gender Equality, University of Toyama



2014.10
第9号



チューリップの花言葉は、「愛・思いやり」です

TOPICS

- 受賞記事
- 大学入試センター試験特別保育
- 今、注目のことば
- リレーでつなぐ ワーク・ライフ・バランス
- 数字で見る富山大学のいろいろ

平成26年度 「女性が輝く元気企業とやま賞」受賞

平成26年6月28日(土)、富山県民共生センター「サンフォルテ」で開催されたサンフォルテ フェスティバル 2014において、富山県知事から国立大学法人富山大学が平成26年度「女性が輝く元気企業とやま賞」をいただきました。表彰に繋がった功績は、①女性管理職の登用や女性教員の採用への積極的な取り組み、②女性活躍推進として行ったシンポジウム開催やニュースレターの発行による意識向上への取り組み、③保育施設の設置など、仕事と子育てを両立しやすい職場環境の整備でした。受賞を機にこれまで男女共同参画推進室を支えていただいた多くの方々へ改めて感謝申し上げますとともに、さらなる職場環境の充実・改善に取り組み、大学機能の強化を目指していきます。



石井隆一富山県知事から賞状を授与される永山学長補佐

大学入試センター試験特別保育を実施します。



開催日:平成27年1月17日(土)・18日(日)



大学入試センター試験特別保育を、3回目となる今年度も実施します。会場は大学周辺の保育所で、保育対象は、生後6ヶ月から小学校3年生までの本学教職員のお子さんです。なお、ベビーシッター・休日保育利用料補助制度を使って最寄りの保育施設等を利用することもできます。

詳しくは、12月上旬頃に学内グループウェア等でご案内します。



活動報告

◆ 平成26年度研究サポーター制度
後期利用者決定 ~採択者は13名(女性6名、男性7名)~

(10月8日付)

夏季学童保育を実施しました

7月28日(月)から8月8日(金)まで、本学教職員のお子さん(小学生)を対象に、第6回夏季学童保育を実施しました。参加者は年々増加しており、今回は、五福、杉谷の2キャンパスで、計78名、10日間でのべ419名が参加しました。恒例となったサマーわくわく教室は、富山大学ならではの盛りだくさんのテーマで、子どもたちの関心を広げてくれました。今回は、一部、とやま科学技術週間の一環として一般児童の受け入れをおこなったり、富山市主催の出前講座を開いて地域連携を図ったりするなど、新たな展開も見られました。利用した教職員の皆さんからも、「安心して業務に当たれた」などの好評をいただきました。

6つのサマーわくわく教室

『おもしろ植物ウォッチング!』

岩坪 美兼 先生
(大学院理工学研究部(理学)・生物学科 教授)



『まわる物は楽しい』

水島 俊雄 先生
(大学院理工学研究部(理学)・物理学科 准教授)



『ソーラー技術でロボット制御を学ぼう』

戸田 英樹 先生
(大学院理工学研究部(工学)・電気電子システム工学科 講師)



『薬草博士になろう!』

伏見 裕利 先生
(和漢医薬学総合研究所・民族薬物研究センター・民族薬物資料室 特命准教授)



『コンピュータで遊んでみよう(易しいプログラミングの勉強)』

梅寄 雅人 先生 (和漢医薬学総合研究所・国際共同研究分野 特命准教授)
春木 孝之 先生 (大学院理工学研究部(工学)・知能情報工学科 講師)



『空気の流れを体験しよう!』

成行 泰裕 先生 (人間発達科学部・人間環境システム学科 准教授)
片岡 弘 先生 (人間発達科学部・人間環境システム学科 教授)



◆煌めく女性リーダー塾 第2期に参加しています

富山県主催の、元気とやま働く女性ネットワーク「煌めく女性リーダー塾(第2期)」が開講されました。これは、県内企業等における女性の活躍を推進し、リーダーをめざす女性社員等の相互交流と自己研鑽を図るための事業です。今年度は、県内26事業所から26名が参加しています。本学からは、企画評価課 高野 直子係長が参加しています。

開講式:平成26年7月25日(金)
受講期間:平成26年7月～平成27年3月

◆新企画・女性職員研修を開催しました

富山大学では、8月26日(火)に、「女性活躍セミナー～きつときとネットワーク～」を実施しました。これは、常勤の20代から30代を中心とした、事務系・技術系女性職員及び興味関心のある女性職員を対象に、意識の啓発、意欲の増進、能力の向上を図ることを目的として企画されました。本学芸術文化学部総務課 室 智子課長補佐による講演「キャリアアップとそのためのプラン」の後、25名の参加者がグループワークによる意見交換を行いました。具体的には、入社してから経験した「良かったことをさらに伸ばす方法」、「困ったことの解決方法」などについて話し合い、発表しました。

◆オープンキャンパスで「キラ☆キラ理学部girl☆」ポスターを掲示しました

内閣府男女共同参画局では、女子学生の理工系分野へのチャレンジ、略して、「リコチャレ」を推奨しています。これを受け、男女共同参画推進室では、8月6日(水)に開かれた富山大学オープンキャンパス(大学説明会)で、女子高校生に理学部進学を呼びかけるポスター「キラ☆キラ理学部girl☆」を掲示しました。数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科、生物環境科学科、の6学科ごとに作られたポスターは、各学科での女子学生の勉学の様子を生き生きと伝えており、参加した高校生たちも興味深く見入っていました。



◆国立女性教育会館所蔵図書の特集展示を実施しました

男女共同参画推進室では、本学の学生・教職員が、先輩たちの生き方に学び、女性共に自分らしい生き方を見つけることを支援するために、国立女性教育会館から50冊の本を借り、特集展示を企画しました。中央図書館の協力のもと、期間中、計64回の貸し出しが行われました。

配架場所:中央図書館 1階 企画展示コーナー
展示期間:平成26年6月2日(日)～8月29日(金)
展示内容:国立女性教育会館 女性教育情報センター所蔵図書50冊

◆全学男女共同参画ワークショップ2014を開催しました

本学教職員の教育・研究および職場環境整備の一環として、昨年度に引き続き10部局の教職員が一堂に会し、ワークショップを行いました。今回は、昨年度のワークショップから見えてきた4つの課題「介護」「コミュニケーション」「キャリア」「労働時間」について、グループに分かれ、それぞれ解決策を模索し、発表しました。多様な意見を知ることができ、参加者が抱える課題解決へのヒントを得る機会となりました。また、キャンパスの垣根を越えた交流の場としても大変有意義な時間となりました。



「介護」「コミュニケーション」「キャリア」「労働時間」について、グループに分かれ、それぞれ解決策を模索し、発表しました。多様な意見を知ることができ、参加者が抱える課題解決へのヒントを得る機会となりました。また、キャンパスの垣根を越えた交流の場としても大変有意義な時間となりました。

開催日:平成26年10月1日(日)
時間:15時～17時15分
会場:五福キャンパス 黒田講堂 会議室
参加対象者:学内10部局の教職員 42名



◆次世代育成

◆富山県主催 イクメン・カジダン出前講座が実施されました

富山県「とやまイクメン・カジダン応援プロジェクト」の一環として、「イクメン・カジダン出前講座」が、理学部キャリアデザイン講座の一環として、下記のとおり、実施されました。

※富山県「とやまイクメン・カジダン応援プロジェクト」
<http://www.ikumen-kajidan.net/>
本学工学部 池本有徳先生がロールモデルとして掲載されています。

開催日:平成26年10月22日(日)
13時～14時30分
会場:理学部多目的ホール
テーマ:「男女共同参画の視点からキャリアについて考えてみよう」
講師:NPO法人ファザーリング・ジャパン 事務局長 徳倉 康之 氏
対象:理学部「キャリアデザイン」受講者等 約30名

◆富山市主催・富山大学共催 ワーク・ライフ・バランス 出前講座が実施されます

大学生を対象とした就職後のライフプランを考える上で必要となるワーク・ライフ・バランスについての意識啓発講座です。人文学部佐藤裕教授にご協力いただき、総合科目「ジェンダー」の1コマを利用した特別講義として開講します。就職から結婚、出産、育児、介護等の現状と課題、法制度や企業の取り組みなどの基礎的な内容をわかりやすく紹介します。

開催日:平成26年11月20日(日)
16時30分～18時
会場:共通教育棟C12
テーマ:「私らしく働くためのハッピーアドバイス ～ワーク・ライフ・バランス～」
講師:一般財団法人女性労働協会 専務理事 佐藤 千里 氏
対象:富山大学1年生 総合科目「ジェンダー」受講生 約150～200名

◆注目のごとは その意味知ってる? 第2回 "ケアメン"

育児に積極的な男性を「イクメン」というなど、男性の役割を表現する「〇〇メン」ということばが浸透しつつあります。それではみなさん、「ケアメン」を知っていますか? 「ケアメン」は、親や妻など家族を介護(ケア)する男性のことです。超高齢社会を迎え、「介護」は今やだれもが直面しうる「ライフイベント」になっています。特に最近では、同居の主な介護者のうち、31.3パーセントを男性が占めているのです。

すでに「ケアメン」が直面する問題や解決の糸口を模索し、積極的に取り組んでいる地域もあります。「ケアメン」という男性の新しい生き方が、介護する人とされる人のコミュニケーション向上など、ポジティブで充実した人生をおくるヒントを与えてくれるかもしれません。

これを機に「ケアメン」のこと、考えてみませんか?

1 出典:厚生労働省 平成25年国民生活基礎調査の概況 介護の状況
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/dl/05.pdf>

2 出典:北九州市立男女共同参画センター・ムーブ センター発行物 > 出版物・情報誌 > ムーブ叢書 > 冊子「男の介護 そして、ケアメンになる。」を発行しました!
<http://www.kitakyu-move.jp/tosyo/2237.html>

